

平成28年度第2回八幡地域協議会会議録（HP版）

日 時 平成28年11月29日（火）午後2時～午後3時22分

場 所 八幡タウンセンター 第3・第4会議室

出席者（9名）

1号委員 佐藤政義 本多秀之 荒生栄治 遠田秀明 長谷川明子 小松久美子

2号委員 後藤純子 小松幸雄 高橋知美

欠席委員 島井里美 池田満好 佐藤康晴 石川正志 阿部喜至夫

政策推進課 地方創生調整監 阿部勉 地域医療政策主幹 池田恒弥

地方創生推進主査 小田雅之

観光振興課 調整主任 小林和也

八幡総合支所：支所長（兼）地域振興課長 後藤啓、建設産業課長 伊藤将人

建設産業課長補佐 後藤明広 建設産業課長補佐 土田正人

地域振興課長補佐 村上祐美、地域振興課主査 鳴瀬勉

傍聴者： 1名

議事日程

- ①鳥海山・飛島ジオパークについて
- ②これからの八幡病院の診療体制について
- ③平成28年度八幡地域除雪計画について

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 会議録署名委員の指名
- 4 報 告
- 5 その他
- 6 閉 会

【協議の概略及びその結果】

本協議会は、観光振興課による「鳥海山・飛島ジオパークについて」の映像を使った説明、政策推進課による八幡病院関係の経過と現状報告、建設産業課による「平成28年度八幡地域除雪計画について」の説明があった。

1 開 会

○小松副会長 それでは定刻になりましたので、これから始めたいと思います。本日はお忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。これより、第2回目の地域協議会を開催します。都合により欠席の委員は、島井里美委員、石川正志委員、阿部喜至夫委員、池田満好委員の4名です。

2 会議録署名委員の指名

○小松副会長 次に次第の2、会議録署名委員の指名を行います。番号順ということになっていますので、今回は、“1番の後藤純子委員”をお願いしたいと思います。後藤委員、よろしくをお願いします。

○後藤純子委員 わかりました。

3 会長あいさつ

○小松副会長 それでは、会議次第に従いまして、荒生会長からのあいさつをお願いします。

○荒生会長 第2回目の地域協議会ということで、今日は「鳥海山・飛島ジオパークについて」の説明をいただくことと、前からずっと協議してきた案件の「これからの八幡病院の診療体制について」の説明をお願いしたいと思います。それと「平成28年度八幡地域除雪計画について」今日の案件はこの3つであります。どうぞよろしくお願いします。

4 報 告

○小松副会長 それでは、これより協議に入ります。会長が議長となり進めていただきます。

○荒生議長 それでは、最初に次第4の報告に入りますが、概ね、1時間ぐらいの意見交換、と考えておりますので、ご協力願います。それでは、最初に報告事項の(1)「鳥海山・飛島ジオパークについて」観光振興課より説明をお願いします。

○小林観光振興課調整主任

～映像機器を使いながら「鳥海山・飛島ジオパーク」について説明～

(ジオパークの定義)

- ・今年の9月9日に「鳥海山・飛島ジオパーク」が日本ジオパークネットワークより認定。
- ・「ジオ」→地球、大地の意味
- ・「パーク」→公園

- ・断層は岩石がある面に沿って破断したもので全国に多くあり。
- ・ジオパークの定義とは「大地の宝を大事に守り、学びをして地域を元気にするために活用する仕組みのこと」
- ・「大地の宝」とは、地形・地質・そこで生まれた文化のことで、地域で勉強し未来に引き継ぐべきもの。

(ジオパークの目的)

- ・この仕組みを使って「どうやったら地域が元気になるか考えましょう」というのがジオパークの本当の主旨。
- ・ジオパークの最終的な目標は、そういった人達が地域の課題を解決するための人材と場所を持って独自に地域の事業を実施することが理想であるが、時間がかかると思われ、労力も必要である。
- ・ジオパークの視点からやることが、取り組む意義でもある。
- ・西日本のジオパークのある所では、地域の子ども達に、「都会でないと出来ない仕事には就かないで」と言って、その地域に戻ってきても手に職を持ち、生活が出来て、次の世代に地域を支えてもらいたい旨の話をバスガイドが子ども達に話している。少しでも人口減にならないよう「地域づくりは30年かかる」といった視点である。
- ・主役は地域の皆さんであり、ジオパークという仕組みを使っていたきたい。

(八幡地域の地理の歴史等)

- ・国道 345 号線は断層の上を走っている。
- ・山の水が川となり土砂を運び、土砂が海を埋めて平地を作って、押し戻された砂が砂丘になっている。
- ・庄内で一番最初に人が住み始めたのは、山の土砂で出来た扇状地で耕作を始めたこの地域と言われ、庄内のルーツは八幡であるかも知れない。
- ・湯ノ台温泉の近くで油が出たが、油が出たということで、その場所は、昔は海でプランクトンが沈んで原油の源が作られていたということ。
- ・鳥海山、飛島も八幡、庄内平野、庄内砂丘も大地の歴史の上に理由があって、今の場所に今の形で存在している。そこに自然の恵や動物の生態系が生まれている。その自然の恵の恩恵を受けて生活し、独自の文化を作ってきた。それを一体的に学んだり体験することが出来る場所がジオパークというもの。

(今後の方向性等)

- ・鳥海山の歴史の背景や湧き水物語等で楽しくストーリーを、外からお客さんを呼び込むだけではなく、地元の子ども達をはじめ、地域を知ることに使える。
- ・八幡自治会長会の場で「八幡の自慢の場所」が130件くらいあって、「そんな所あったの」と意外と知らない所が多かった。
- ・八幡の大地の歴史を背景にして「だからこれが良い」、「これはおもしろい」、「こういう

ものを売るんだ」といったことをテーマに、できればそれがお金を生むことが出来るような仕組みで話し合いを行った。その一例：「八幡食い倒れツアー」→山菜、きのこ、イナゴ（昔のたんぱく源）、野草等の料理、孟宗竹を使ったフルコース等。

- ・旅行会社は「ここでしか味わえない」、「ここでしか見られない」等のオリジナリティを好む。賛否はあるかも知れないが好きな人は来る。
- ・失敗するかも知れないが、紆余曲折いろいろやって行って、そのうちいくつか当たって積み重ねることが大事である。
- ・ジオパークの見どころが走って見れる、ジオパークを周知するような結んだ線（コース）を作ることも大切。
- ・地域で自主的にできることを行政が応援する形が望ましい。
- ・その結果、実績として形になって、お金につながるということが非常に大事で、「地域を元氣しよう」とする人が増えるかも知れない。

(その他)

- ・庄内はシャイな人が多く、観光客等から聞かれても謙遜してか「酒田は何もない」と答える人が多い。そうすると困ることが一つあり、皆さんの子どもさんやお孫さん達が親達が「酒田は何もない」と言っているのを聞くと、素直に“酒田は何もない所”と捉えてしまい、そうなる地域に誇りを持って生活はできないし、進学や就職で市外へ出て、人から「酒田はどんな所？」と聞かれても「何もない所です」となってしまう。「酒田はどんな所？」と聞かれた場合「酒田は食べ物、お酒はおいしい。海や山、川もある。年間通して良い所だから遊びに来てね」と言ってもらいたい。実際、遊びに来た際は、受け入れる時は「こんな何もない所によぐ来たの」と言うてはいけない。「おもしろい所があるから、楽しんで行っての」と言ってもらいたい。
- ・庄内をあちこち回ると実際に楽しい所が多い。
- ・今の若い人達は「ここがおもしろい」となると、すぐに携帯を打つ。下手に広告を出すより早く評判が広がる。

○**荒生議長** ユーモアに満ちた説明で楽しく聞かせていただきました。ただ今の説明を聞いてのご意見ご質問などございましたらお願いします。

○**佐藤政義委員** テーマが漠然というか、大きすぎるというか、目に見えるものは興味が出てくるが、喰いつきが難しいところがある。色々、説明があり、そのような形に持って行ければ幸いと思われるが、難しい課題と思われる。

○**遠田秀明委員** 先程、孟宗の話が出たが、古升田の後藤孝之助さんは、自宅の敷地に孟宗が出たのを客に取らせて、食事ができるセット販売を毎年行っている。結構、人も来ているようだ。そのような商売をやっているのは孝之助さんぐらいであり、そういった方法で集客できるのであれば、他でも考える必要があるだろう。

- 荒生議長 毎年、同じお客さんと呼んでいる訳でもなさそうだ。
- 遠田秀明委員 ロコミで話が広がっているみたいだ。
- 荒生議長 自宅を開放してやっているということか。
- 遠田秀明委員 そうです。
- 後藤純子委員 孝之助さんの孟宗は産直「たわわ」にも出している。
- 遠田秀明委員 他の山菜や、山に植えた野菜を取らせてやっているそうだ。
- 荒生議長 入山料などはどうなのか。
- 遠田秀明委員 おみやげ用など、セットでやっているようだ。八幡は山が多い訳で、そういった自然の恵みを利用すべきだ。
- 小松幸雄委員 日向も孟宗は沢山ある所だ。コミセンでも孟宗市をやって盛況だった。来年度も水煮にして出そうかとか、もう少し手を加えてやろうと検討している。それと、竹炭などの孟宗竹の使い道も検討している。
- 荒生議長 日向地区の孟宗は苦りっぽくないか。
- 小松幸雄委員 とてもおいしかった。
- 後藤純子委員 孟宗は色々な料理に使えて豊富である。
- 高橋知美委員 こっちに移り住んでびっくりしたのは、孟宗を生で食べるということで、新鮮だから出来ること。今まで、ゆがいて、あく抜きしたのしか食べたことがなかった。
- 遠田秀明委員 土に埋まっている部分は生で食べられる。
- 高橋知美委員 林業関係でも、助成金等を利用して、定期的に山の所有者に山が元気になるような持続的な活動や事業を行えば、ジオパークとしてやって行けるのではないか。
- 小松副会長 体験型農業には、時期もずらして色んなメニューがあるが、実際どの位、人が来ているのか。
- 小林調整主任 正直あまり来ていない。
- 小松副会長 宣伝すると、もっと来るのでは。
- 小林調整主任 タケノコの事だけで、皆さんずっとその話をして、「ああしたら良いんじゃないか」とか「こうしたらどうか」と議論すること自体がジオパークの取り組みや主旨に合致している。役所の仕事は「決まりましたから、これ、お願いします」というのが多いが、決まってからお願いされるよりも自分達で「こうしたほうが良いんじゃないか。」としたほうが、やっけていて楽しいと思われる。やっけていて楽しいことが、実際にお客さんと呼

び込んだり観光に繋がるようになると、「もっとやってみるかな」となり、それをどんどん繰り返すことが持続可能な地域づくりに繋がると思う。このような出前講座などで皆さんが話し合いしたものを何とか達成させるためのお手伝いをさせていただきたいというのもジオパークの一つの目的である。

○高橋知美委員 最終的な目標の拠点づくりの関係で、私が旅行に行く際は事前にネットで調べて行くが、ジオパークに賛同した施設についてはネットに数多くのデータが載っていて、自分が行きたいものや自分に合ったものを選べる状態になっている。糸魚川あたりは、車を運転していると、所々がジオパークだらけで、ジオパークを知らない人がいないのではという位ある。そういった状況だと地元の人でもジオパークに無関心という訳にも行かないだろう。山奥の生簀みたいな所までジオパークの活動をしていて、ネットを見て人が集まっている。そこまで出来るようであるならば、ジオパークというものを周知させることは大切である。それに、拠点がないと、まとまりもなくバラバラになって情報も伝わりにくくなる。最終的な目標が拠点というよりは、拠点づくりを同時進行でやっに行かないと、情報が遅かったら動きも遅くなってしまうので、同時進行を重要視していただきたい。

○小林調整主任 糸魚川は2009年に日本で初めてジオパークに認定され、現在は世界ジオパークにも認定された。また、拠点づくりの関係で、いきなり拠点や情報発信の施設づくりをドーンと作りましょうというのは現実的ではなく、地域の活動の積み重ねの上に実績を作ってから、「だから、拠点づくりの場所がほしい」となっていくのが理想的と思う。拠点施設というのは、地域の人達が集って、自分達のことを話し合う場にしたり情報発信の場にしたりして、出来れば役所はあまり関わり合わないで独立した組織としてやっ行くのが長く続くコツかなと思われる。そういったやり方も、役所が「こうしましょう」と言うのではなくて、「皆さんがワークショップをやったりして色々な案を出してもらって考えましょう」という形でやっっており、目標を目指して地道な活動で一步步やっ行くとジオパークの地域が出来るのかなと考える。

○荒生議長 ジオパークに認定されたということで、国や県から補助金みたいなものはあるのか。

○小林調整主任 一切ありません。他の補助金で活用出来るものがあれば、どんどん活用しましょうとしている。

○高橋知美委員 今、言われた「行政があまり関わらないで地元住民を中心に」だが、行政

の人もこの地域に住んでいる人達なので、地元が中心だが、行政や教育関係など全体でや
って行かないと片手落ちになるのでは。

○**小林調整主任** 皆が集まって決めましょうといった地域の集会の中に色々な職業の人がい
る訳であり、専門的知識を活かしながらの討論することは大切である。

○**荒生議長** ジオパークについては、色々なアイデアを出し合って盛り上げてゆくべきだ
し、自治会長さん達も一生懸命やっているようだ。

○**高橋知美委員** ジオパークも大事だが、認定される前からこの地域でよく言われていた観
光地として、観光案内所みたいなものを「たわわ」等に設ける等、外から来た人やネット
が使えない人も情報が得られるような、わかりやすいような情報発信の場というものを考
えてもらいたい。

○**長谷川明子委員** 先程、拠点づくりとあったが、それは宿泊したり自然体験したりする施
設ということで、現在、まいづる荘等は空いており、そういった施設を利用する方法もあ
る。9月に行った事務用イスでのレース大会の選手や音楽国際交流でやってきた外国人等
は鳥海山荘までは遠いということで、すべて地域の公会堂に泊まった。施設を整備すると
なった場合、例えば「八森そば」のトイレが和式で狭いとの話もあり、手を付けられる所
から整備して、残りのボロボロの状態になっている使えない施設は解体する等してもらい
たい。

○**荒生議長** 空いている施設について、市ではどう考えているのか。

○**伊藤建設産業課長** まいづる荘は現在、農林水産課で管理している。今年まで教育委員会
で遺跡の関係で使用していたが、その後、旧本楯小学校に移ったため現在は空いている。
良い利用方法がないものか現在模索しているが、ボイラー等が老朽化しており、今後につ
いては現在検討している。

○**荒生議長** 次に、報告事項の(2)「これからの八幡病院の診療体制について」説明をお願い
します。

○**池田地域医療政策主幹** 八幡病院の関係で、今日は説明というより今までの経過を地域協
議会の皆さんに報告という形にしたい。

～資料1-1「地域説明会の開催状況等について」を基に説明～

※抜粋

・平成28年5月、八幡地域自治会長会から要望書が提出される。

- ・「八幡病院のあり方を考える協議会」を設置し4回程開催
- ・4地区の地域説明会を2回ずつ開催
- ・平成28年10月、八幡地域自治会長会へ説明
- ・平成28年11月、要望書へ回答
- ・平成28年11月、八幡地域自治会長会へ説明
- ・平成28年11月、八幡地域協議会へ報告

～資料1「これからの八幡病院の診療体制について」を基に説明～

1. なぜ、八幡病院の診療体制を見直さなければならないのか？

- ・社会保障制度の崩壊の危機（後期高齢者の増加・少子化・人口減少により平成37年には人口の3割が高齢者の予測）
- ・医療費の増大が問題化、社会保障制度を支える財源の確保が必要。
- ・国の医療制度改革が示される。
- ・公立病院改革（平成19年12月、総務省より公立病院ガイドラインが示され、各公立病院に改革プランの策定を求めた）→八幡病院は平成21年2月に策定したが抜本的な改革には至らず。
- ・平成27年3月、「新公立病院改革ガイドライン」が示され、地域医療構想（ビジョン）を踏まえた役割の明確化が追加され、今年度までに策定するよう求められている。

◇八幡病院（急性期）の現状と課題

- ・人材確保及び設備・構造の問題から回復期、慢性期への転換が非常に困難。
- ・病棟に資格のある専従の医師や理学療法士等の確保が出来ていないため回復期への転換が出来ない。
- ・設備の構造上、基準に合わず、慢性期への転換も出来ない。
- ・よって、無床化せざるを得ない状況になっている。
- ・医師については自治医科大学卒の派遣医師に頼っている状態であり、それでも足りないということで、山形大学や日本海総合病院からの応援をもらっている。
- ・看護師は募集しても応募がない状況で、若い看護師の確保が出来ない状態であり病床を維持することが厳しい状態。
- ・高齢化や人口減少が進行し、入院患者が非常に少なくなり経営が厳しくなっている。

- ・八幡地域から医療をなくさないため、持続可能な医療提供体制の整備が必要。
- ・「山形県・酒田市病院機構」と統合して日本海総合病院を中心とした体制で整備して行くことが最善の策と考えている。

2. 八幡医療センター（仮称）の診療体制について

- ・経営形態→「地方独立行政法人」へ移行。
- ・診療科→これまでの診療科に整形外科が加わる。
- ・病床数→無床診療所。
- ・診療時間等→土曜日診療（8：30～17：15）と平日夜間延長診療（～21：00）を実施予定。
ただし、応援医師の確保状況によって可能な範囲で実施。
- ・外来診療方針→午前2診、午後1診
 - 整形外科（週1回）、循環器内科（月2回）
- ・医師数→2人（常勤）、他に日本海総合病院から応援医師（整形・循環器）を依頼。
- ・看護師数→10人（外来6人・訪問4人）
- ・医療技術者→5人（理学療法士等2人・検査技師2人・放射線技師1人）
- ・事務職員→2人（他に業者委託）
- ・附属施設→訪問看護ステーション「やわた」（24時間体制）は継続。
- ・升田、青沢診療所も継続するが、患者数が非常に少なくなっており、状況を見ながら今後、訪問診療の切り替えなど対応を検討。
- ・訪問診療は継続し、休日・夜間は医師が待機（電話）。
- ・「幸楽荘」の週1回の診察も継続。
- ・無料シャトルバスの運行（八幡医療センター⇄日本海総合病院）。
- ・訪問リハビリテーションの導入の検討。

3. 交通手段の確保について

- ・八幡医療センターと日本海総合病院間の「シャトルバス」を午前、午後それぞれ2往復ずつ運行。
- ・「シャトルバス」に合わせた「ぐるっとバス」の運行時間の見直しを実施。
- ・バスの利用者→日本海総合病院への検査等の紹介患者、付き添いの家族、入院患者の見舞い等。

- ・バスの形体→車いす1台、搭載可能な車両。

4. 終末期医療について

◇無床化により、次のように対応。

(1) 福祉施設入所

- ・患者については、事前に担当医が同席した上で、治療方針を決定の際に、十分な話し合いを基に意思決定をしていただく。
- ・延命治療を希望する場合→患者の病状の変化により、酒田医療センター又は日本海総合病院へ入院する取り組みをし、入院先で看取りをしていただく形になる。
- ・施設で看取りたい→夜間の死亡の場合、翌朝に連絡をいただき、午前の診療前に医師が訪問する形。午前中の死亡の場合、午後から訪問する対応。
- ・施設で亡くられる方が年間8件くらいとのこと。

(2) 自宅

- ・訪問診療、訪問看護を利用している患者が自宅で療養を希望する方→事前の担当医の治療方針決定の際に、十分な話し合いを基に意思決定をしていただく。
- ・延命治療を行わず、自宅で看取りたい場合→症状の変化により、訪問看護を実施して夜間に死亡の場合、訪問看護師が自宅を訪問し、翌朝に担当医と訪問看護師が一緒になって訪問する形になる。
- ・自宅で亡くられる方が年間3件くらいとのこと。
- ・死亡診断書→死亡確認を行った医師が作成。
- ・最後まで延命治療を希望する場合、患者の症状の変化により、酒田医療センター又は日本海総合病院への入院とし、入院先で看取りをしていただく。
- ・日頃、通院している人や施設に入所している人→症状が急変した場合、救急車を呼んで日本海総合病院へ搬送する。

5. その他

- ・日本海総合病院（高度急性期医療）を中核として、酒田医療センター（回復期・慢性期医療）との2つの病院が入院機能を担う。八幡医療センター、松山診療所、飛島診療所とネットワークを組み合わせながら、「かかりつけ医」という体制で役割分担を明確にしながらい医療体制を整備する。
- ・統合の時期→平成30年4月を目標。

・将来にわたり、八幡地域から医療を無くさないため、八幡医療センターとして整備。

○荒生議長 ただ今の説明に関し、何かご意見等ございますか。

○遠田秀明委員 統合後、内科の診療はどのような体制になるのか。

○池田主幹 現在、通院されているのと同様で変わらない。

○遠田秀明委員 今は、山形大学から月2回、派遣されているが、統合後も同じか。

○池田主幹 統合後は山形大学でなく、日本海総合病院が循環器担当の医師を派遣する体制になる。

○荒生議長 他にございませんか。

○小松幸雄委員 若い人達と病院について話すと、「今の病院を残すよりも体制が良くなる八幡医療センターが良い」と聞く。また、整形外科を充実させてほしいという声が多くあった。

○池田主幹 整形外科の担当医は週1回来てもらう形になるが、リハビリ機器の整備も含めて、八幡医療センターの充実した体制を図りたい。一方、整形外科が入って、統合直後に大きく変わるということではなく、少し長い目で見ていただきたいし、スタートしてからもご意見をどんどん頂戴したい。

○後藤純子委員 訪問リハビリテーションの導入検討とあるが、2人の理学療法士が担当するという事か。

○池田主幹 訪問となると、2人のスタッフで足るのかとなり、そういった人員確保も含めて今後、スタートさせて状況を見て、充実させるものは充実させるように検討したい。

○本多秀之委員 昨年から、今までの色々な意見に対し、十分な対応が出来ていると見受けられた。今後、センターとして動き出した以降も、改善策が施されるような方向性で、八幡医療センターに移行したから終わりではなく、そこを出発点として更に良いものといった方向性を付けてくれるのであれば、我々はしっかりと信頼して見守って行くべきである。

○荒生議長 今後も色々な形でこの病院の話が出てくると思うので、その時またお話していただきたい。次に報告の(3)平成28年度八幡地域除雪計画について説明願います。

○伊藤課長 ～資料2、平成28年度除雪計画路線図に基づいて説明～

・昨年度と大きな変更なし。

・今年度の除雪指定路線は222路線で総延長が87.2km(八幡管内)。

- ・除雪は積雪、降雪が10cm以上で出動。
- ・地域の8社に委託。
- ・中央路線については朝7時まで完了させる。
- ・地域説明会は終了済。

○荒生議長 この除雪に関して何かご意見ありますか。

○遠田秀明委員 大平沢の自宅近くの道路だが、以前はきれいに除雪してもらっていたが、最近、中途半端なやり方で20cm位雪が残っていることがあり、四輪駆動車でも走れない時がある。

○伊藤課長 業者にそのことを伝えて善処したい。

5 その他

○荒生議長 他にご意見はございませんか。予定の時間が過ぎましたので、閉会を副会長お願いします。

6 閉会

○小松副会長 これをもちまして、第2回目の地域協議会を閉会いたします。委員の皆さん、事務局の皆さんご苦労様でした。

以上